

会 議 録

会議の名称	第19期東村山市社会教育委員会議（第15回）				
開催日時	平成24年10月19日（金）午後7時～9時				
開催場所	東村山市役所いきいきプラザ4階 教育委員会室				
出席者及び欠席者	<p>出席者：</p> <p>（委員） 吉井四郎議長・伊藤二葉委員・小山栄子委員・島崎喜美子委員・吉満洋子委員・桑原純委員・當間昭治委員・杉本みさ子委員</p> <p>（市事務局） 間野雅之教育部次長・神山正樹社会教育課長・齋藤文彦社会教育課生涯学習係長・野崎美里社会教育課生涯学習係主任</p> <p>欠席者：</p> <p>（委員）</p> <p>（市事務局） 土田士朗副議長・宗像宏中委員</p>				
傍聴の可否	傍聴可能	傍聴不可の場合はその理由	/	傍聴者数	なし
会議次第	<p>1．あいさつ</p> <p>2．報告事項</p> <p>（1）東村山市青少年問題協議会（第2回）について</p> <p>3．協議事項</p> <p>（1）（仮称）生涯学習計画への意見反映</p> <p>3．その他</p> <p>（1）第17回会議日程について</p>				
問い合わせ先	<p>教育部社会教育課生涯学習係</p> <p>担当者名 齋藤・野崎</p> <p>電話番号 042-393-5111（内線3513）</p> <p>ファックス番号 042-397-5431</p>				
会 議 経 過					
<p>1．あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 議長、社会教育課長よりあいさつ <p>2．報告事項</p> <p>（1）東村山市青少年問題協議会（第2回）について</p> <p>（A委員）第26回青少年善行表彰について協議を行い、5名の表彰候補者が承認された。11月17日に開催を予定している、平成24年度青少年健全育成大会に関しては、昨年の反省を踏まえて、プログラムを若干変更し、市長のあいさつを第2部の終わりに行うことに決めた。その他、家庭教育に対する支援等に関して意見交換を行った。</p>					

3. 協議事項

(1)(仮称)生涯学習計画への意見反映

(B委員)市民の方も当市の具体的な現状に関心を持っていると思う。平成11年に「東村山市生涯学習推進体制の推進」で示されたことが、現在どのようになっているのか検証が必要である。さもないと計画倒れになってしまう。当市姉妹都市での体験活動など当市独自の事業における現状について、もっと具体的に紹介したほうが良いと思う。

(C委員)市の直営事業のほか、市民の手で行われている事業の情報がまとまっておらず、それぞれの事業のちがいや独自性も分からない状態である。子どもたちの目線で考えると、学校以外の居場所を与えるのに学校外活動は有効であるが、関連情報が不足している。民間団体でも子どもたちを対象にした活動を幅広く展開しているが、民間だけに頼ると参加費用が高くなるので、行政のバックアップが必要である。

(D委員)情報発信のためには、活動団体が意見を述べ合えるようなネットワークの構築が必要である。また、子どもが学校外活動に入り込むためには「楽しそうだから」というような前向きなきっかけが必要である。しかしながら、保護者にも子どもを活動に参加させるのをためらう傾向がある。近年、学習塾や各種教室に通ったり、スポーツに関わったりする子どもが多いが、それだけでなく、地域の活動にも積極的に参加し、様々な体験を幅広くできるような支援体制が必要だと思う。

(E委員)活動に関わるのが面倒であるという理由で、保護者も子どもが学校外活動に参加するのを後押しできない傾向がある。保護者自身、子どもの頃の原体験が少なく、積極的に関われないのではないか。

(F委員)現在、各所管で様々な事業が展開されているのであるから、その対象範囲をもっと広げて、子どもが活動できるようにすればよいと思う。また、情報発信のために、ネット環境を充実させるべきである。

(G委員)全ての人がインターネットを利用できるとは限らないので、他の情報媒体も充実させるべきである。図書館事業をもっと活用し、情報を発信するべきではないか。

(H委員)現在行われている活動として、ふれあいセンターでの活動をもっとPRしてほしいと思う。センターまつりに地元の中学生ボランティアが関わっている。このように地域のイベントをきっかけに子どもが地域の人と関わっていくケースもある。

(議長)生涯学習計画は、10年後の東村山を見据えた計画である。将来を担う子どもが、活動を通して達成感を持ち、将来に役立つような工夫がほしい。

(A委員)子どもの頃からボランティアに関わった多くの青年が、青少年善行表彰を受けているのは、子どもが充実感を得るのに意味のあることだと思う。

(B委員)子どもの学校外活動を推進するには、活動に関わる大人の間関係や世代交代も必須であると思う。地域で長年活動している組織がマンネリ化し、新参者が入り込めないという声が聞かれる。

(C委員)子どもの学校外活動には子どもの保護者または同世代の人の関わりが必須だが、仕事が忙しいなど様々な理由で保護者の協力を得るのが難しいという声が聞かれる。

(D委員)保護者にも社会参加という認識が十分に備わっていないのではないか。PTAが十分機能しているとはいえない現状がそれを物語っているように思える。当市でも、PTAの担当所管が社会教育課であるように、本来ならPTAは学校を

拠点とした地域コミュニティでの活動を行う組織である。それにもかかわらず、単に学校の手伝いを行う組織であると認識している保護者が多く、活動を通して地域に貢献しているという意識が薄い。

(E 委員) 大人も子どもも集団を成していくためには、リーダー的存在が必要である。大人の組織にもリーダー的な力を持つ人が不足しているため、大人たちが子どもの活動を後押しできないのだと思う。情報発信のために広報の力も大事だが、まずは組織を取りまとめるリーダーの力が必要だと思う。また、計画を策定する上で「理想の社会像」という文言は改めたほうがよいのではないかと。東村山らしさを前面に出すために、「あるべき姿」のほうが良いと思う。

(F 委員) 活動を展開するには人間関係が大事である。そのためには、行政が活動団体のコーディネーターを担う必要があると思う。課題の解決には行政が積極的に介入してほしいと思う。

(議長) 今後も意見反映を行うにあたり、今までの振り返りが必要なので、事務局にはこれまでに出示された意見を大まかでも良いので、取りまとめて示していただきたい。

4 . その他

- 第 17 回会議日程について 平成 24 年 12 月 18 日 (火) 午後 7 時から